

「日々の理科」(第 3173 号) 2023, -4, 14

「小石川五郵便局」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

日本には郵便局が多い。都会にも住宅地にも高原にも漁村にも離島にも、地図を見れば〒マークが見つかる。スウェーデンでは、郵便物の引き受けをホテルの売店やスーパーのレジが代行していることが多い。



私の自宅のそばにも「小石川五郵便局」(小石川五丁目郵便局)があった。マンションの地下1階のようなところにあり、私は週に何度も利用していた。それが2023年4月14日限りで移転になり、新しくできた中央大学校舎の1階に4月17日に「茗荷谷駅前郵便局」としてオープンすることになったのだ。



私は用があって最終日に行けなかったので、友人に頼んで記念押印してもらった。官製はがきや63円以上の切手が貼ってあれば、押印してもらえるのだ。友人にはわざわざ午後に行ってもらった。「12-18」の時刻表示が、本当に最後の消印となるからだ。



小さな郵便局だが、風景入りの消印(風景印)もあった。窪町東公園と文京スポーツセンターの図柄だ。この消印も今日限りで廃印となる。



国際郵便引き受け用の「欧文印」というものもある。局名表示も日付表示も、何だか外国の郵便局のようだ。



友人が気をきかせてこんな消印も押してもらった。これは「ローラー印」といって、大型郵便物や多数貼りの切手、凹凸の多い郵便物に押す時に使う。私は思いつかなかったのだが、これでこの局で使われていた最終消印をすべて入手でき、良い記念になった。